

安全データシート
(SDS)制定 2010年10月21日
改訂 2022年05月30日

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称 クリーンソルダ― ソルダ―エース DHB-RMA3 NP303

供給者の会社名 株式会社 ニホンゲンマ
住 所 大阪市淀川区三津屋北 2-16-4
担当部門 技術部
担当者 竹中 順一
電話番号 06-6302-1251
ファックス番号 06-6302-1250
メールアドレス h-sales@genma.co.jp

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| ＜物理化学的危険性＞ | | ＜健康に対する有害性＞ | |
|------------|----------|------------------|----------|
| 爆発物 | 分類できない | 急性毒性(経口) | 分類できない |
| 可燃性ガス | 区分に該当しない | 急性毒性(経皮) | 分類できない |
| エアゾール | 区分に該当しない | 急性毒性(吸入:気体) | 区分に該当しない |
| 酸化性ガス | 区分に該当しない | 急性毒性(吸入:蒸気) | 分類できない |
| 高圧ガス | 区分に該当しない | 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) | 分類できない |
| 引火性液体 | 区分に該当しない | 皮膚腐食性/刺激性 | 分類できない |
| 可燃性固体 | 分類できない | 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 | 区分2A |
| 自己反応性化学品 | 分類できない | 呼吸器感受性 | 分類できない |
| 自然発火性液体 | 区分に該当しない | 皮膚感受性 | 区分1 |
| 自然発火性固体 | 分類できない | 生殖細胞変異原性 | 分類できない |
| 自己発熱性化学品 | 分類できない | 発がん性 | 分類できない |
| 水反応可燃性化学品 | 分類できない | 生殖毒性 | 分類できない |
| 酸化性液体 | 区分に該当しない | 生殖毒性・授乳影響 | 分類できない |
| 酸化性固体 | 分類できない | 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 区分2 |
| 有機過酸化物 | 分類できない | 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 区分1 |
| 金属腐食性化学品 | 分類できない | 誤えん有害性 | 分類できない |
| 鈍化性爆発物 | 分類できない | | |
| | | ＜環境に対する有害性＞ | |
| | | 水生環境有害性 短期(急性) | 分類できない |
| | | 水生環境有害性 長期(慢性) | 分類できない |
| | | オゾン層への有害性 | 分類できない |

GHSラベル要素
絵表示

注意喚起語

危険

危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
強い眼刺激
臓器の障害のおそれ
長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害
長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

注意書き

- 安全対策** 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- 応急措置** 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。
皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 保管** 容器に入れて保管すること。
- 廃棄** 内容物／容器を国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。
- 他の危険** 該当なし
- 有害性**

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名または一般名
成分

混合物
やに入りはんだ

| 物質名 | 化学式 | CAS No | 官報公示整理番号 | 含有量wt% |
|-------|-----|-----------|----------|--------|
| 錫 | Sn | 7440-31-5 | 対象外 | 93.4 |
| 銀 | Ag | 7440-22-4 | 対象外 | 2.9 |
| 銅 | Cu | 7440-50-8 | 対象外 | 0.48 |
| 変性ロジン | - | - | - | 2.8 |
| 添加剤 | - | - | - | 0.42 |

4. 応急措置

- 眼に入った場合 清浄な水で十分に洗眼し、その後必要に応じて医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合 石鹼水でよく洗浄する。
吸入した場合 直ちに新鮮な空気のある場所に移動する。
飲み込んだ場合 直ちに吐出し、その後必要に応じて医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤 ドライケミカル、エアフォーム、二酸化炭素(水系は除く)
特定の消火方法 消火はできるだけ風上から行い、付近の着火源を速やかに取り除く。
使っては成らない 水。金属が溶融している時は注水厳禁。
消火剤
消火を行う者の保護 消火時は風上に立ち、呼吸用保護具等を着用して発生ガスを吸入しないようにする。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意 回収作業は風上より行い、保護眼鏡、保護手袋、保護マスクなどを着用する。
環境に対する注意 公共用水域に流出しないよう留意する。
除去方法 漏出物は冷却後、掃き取るか又は掃除機で吸い取り、空容器等に回収する。
回収物の処理は『13.廃棄上の注意』を参照、少量の場合は有機溶剤で拭き取り、回収物は上記同様に処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い 素手で取り扱っては成らない。作業中は必ず保護眼鏡、マスクを使用する。
注意事項 屋内作業の場合、適切な排気装置を設ける。
保管 冷暗所に保管する。
避けるべき事項 高温条件、強酸・強酸化剤との接触。

8. 暴露防止及び保護装置

| | | | |
|------|----------------------|-----------|--|
| 設備対策 | 使用時は局所排気を行う。 | | |
| 許容濃度 | 単位 mg/m ³ | | |
| | 日本産業衛生学会 | ACGIH TWA | |
| | 2021年 | 2021年 | |
| 錫 | - | 2. | |
| 銀 | 0.01 | 0.1 | |
| 銅 | - | 0.2 | |

| | | |
|-----|-----|--------------|
| 保護具 | 呼吸器 | 保護マスク |
| | 手 | 保護手袋 |
| | 眼 | 保護(ゴーグル型)めがね |

9. 物理的及び化学的性質

| | | | |
|-------------------|------------|----------------------|------|
| 物理的状态 | 金属線 | | |
| 金属融点 | 217-219 °C | 主溶剤蒸気圧 | - |
| 可燃性 | 可燃物を含む | 比重 | 6.1 |
| 溶解度(水) | 不溶 | n-オクタノール/水分配係数(log値) | 情報無し |
| 分解温度 | 情報無し | 主溶剤引火点 | - |
| 主溶剤発火点 | - | 酸化性 | 情報無し |
| 発火性(自然発火性、水との反応性) | 無し | 沸点 | 情報無し |
| | | 粒子特性 | 情報無し |

10. 安定性、反応性

| | |
|------------|----------------------------------------------|
| 反応性 | 金属の為、強酸・強酸化剤と反応する。 |
| 化学的安定性 | 常温では安定 |
| 避けるべき条件 | 高温条件 |
| 混触危険物質 | 強酸・強酸化剤 |
| 危険有害な分解生成物 | 燃焼により、銅ヒューム。 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素を放出することがある。 |

11. 有害性情報

| | |
|------------------|-------------------------------------------------|
| 急性毒性 | 分類できない |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 情報無し |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | (Ag)ウサギの試験で軽度の刺激性、48時間で回復している 9) の記載がある。 |
| 呼吸器感作性 | 情報無し |
| 皮膚感作性 | (Ag) 銀を含有する装身具への接触によりアレルギー反応を生じた記載がある。 |
| 生殖細胞変異原性 | 情報無し |
| 発がん性 | 情報無し |
| 生殖毒性 | 情報無し |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | (Ag) 呼吸器系の障害 |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | (Sn) 肺に障害のおそれ (Ag) 長期又は反復ばく露による眼、呼吸器(吸入)の障害。 |
| 誤えん有害性 | 情報無し |
| 水生環境有害性 短期(急性) | 情報無し |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | 情報無し |

12. 環境影響情報

| | |
|-----------|------|
| 生態毒性 | 情報無し |
| 残留性・分解性 | 情報無し |
| 生体蓄積性 | 情報無し |
| 土壌中への移動性 | 情報無し |
| オゾン層への有害性 | 情報無し |

13 廃棄上の注意

残余廃棄物 都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物業者に委託して処理する。
 汚染容器及び包装 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規、自治体基準に従って処理する事。
 金属成分についてはリサイクル可能。

14. 輸送上の注意

国連番号 非該当
 海洋汚染物質 非該当
 輸送の特定の安全対策及び条件
 運搬に際しては転倒、落下、損傷が無い様に積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法 施行令第18条の2 名称等を通知・表示すべき危険物及び有害物 322 ずず及びその化合物
 施行令第18条の2 名称等を通知・表示すべき危険物及び有害物 137 銀及びその水溶性化合物
 施行令第18条の2 名称等を通知・表示すべき危険物及び有害物 379 銅及びその化合物
 PRTR法 第1種指定化学物質 管理番号 82 銀及びその水溶性化合物 2.9%
 その他法令 下水道法 施行令第9条の4 銅及びその化合物

16. その他の情報

参考資料 JIS Z 7252 GHSに基づく化学物質等の分類方法
 JIS Z 7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
 -ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)

この情報は改定日時点での情報を元に作成したものです。
 正確を期していますが、保証するものではありません。個々の使用に対する使用条件や製品の適正な
 注意喚起や安全な取扱いを行って下さい。
 この情報の使用及び使用結果については使用者の責任とさせていただきます。